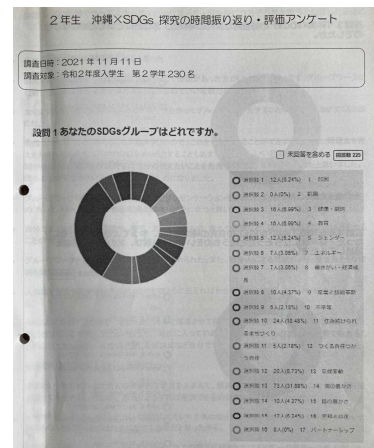


◆ 隠れているものに目を向ける ◆

昨年に引き続き、年度末に開催予定の本校吹奏楽部定期演奏会で指揮をさせていただくことになった。そのため時間を見つけスコア（総譜）を読んでいる。慣れてくると面白いもので、勝手に音が立ち現れてくるようになる。作曲家は、なぜこの箇所はこの音を配置したのか、この小節の和音進行はどうなっているのか、なぜこの発想標語なのか…等々考え出すときりがなく、いくら時間があっても足りない。スコアを読むことは、隠れている大事な暗号を解読する作業に似ている。

さて、再びのコロナ感染症拡大は様々な場面に深刻な影響を与えている。教育現場も例外ではない。果たして、この行事が無事に開催できるだろうかと一抹の不安もよぎる。

そんな中、2学年で進めている探究活動のレポートを読み返す。12月には、時期を遅らせ実施した沖縄方面への修学旅行を終え、“3年0学期”に突入した同学年。『沖縄×SDGs 探究の時間振り返り・評価アンケート』というタイトルの、2学年一人一人の手になるA4 22ページの分厚いもの。学校HPでも「2学年【修学旅行・総合的な探究の時間】ご報告」というタイトルで紹介しているが、これは、この学年が1年から継続してきた探究活動のほんの一部である。



SDGsを主題に据えているけれども、彼らの気づきはそれにとどまらなかったようだ。修学旅行を前に、沖縄の皆さんとZoomで交流した学びは、地に足が付いたものとなっていた。

こんな意見がある。

「Zoomによる社会人の方との交流を通して、自分たちでは気づかなかった問題点や、初めて知ったことなどが多かった。沖縄×SDGsのことについて考えてばかりいたけれど、茨城はどうなのか。や沖縄より深刻なところはあるのか。などいろいろな視点で情報収集をしながら学べた。」(ママ)

主体的な学びが問われている。この意見から、「いろいろな視点で」の「情報収集」をしながら新たな視点へフェイズが変わったことがわかる。見えないもの、隠れているのものへの探究…、手探りでもいいから、このような学びをさらに推し進めて欲しい。

この学年は行事ごとにこのような振り返りを行っている。その度にこのようなレポートが蓄積されていく。卒業時にはどれほどの厚みになるのだろう。学年の探究活動は次年度でも続いていく。今度の主題は「学び」だそうだ。大いに期待している。